

CONTENTS ◆旧玉川村街並みウォッチング ◆おくさわ今と昔 ◆旧玉川村街並みウォッチング(続き)
◆グリーンサムのお庭拝見 ◆活動報告 ◆会からのお知らせ

秋のつどいレポート

旧玉川村街並みウォッチング(等々力・九品仏)

今年のまちめぐりは、NPO提案型協働事業として区の助成金を受け、実施されました。区報に掲載して参加者を募ったため、区内遠方の方からも申し込みがありました。当日は1日だけの貴重な晴天に恵まれて、58名の参加者がありました。午前は3グループに分かれて、それぞれ玉川全円耕地整理によって整えられた街並やゆかりの地を辿りながら、歴史を探訪しました。午後は全グループが尾山台地区会館に集合して、ビデオを見ながら学びました。この催しに当たって、等々力溪谷保存会、玉川神社、九品仏、中町建築協定、ねこじゃらし公園の関係者のご協力、また主催者サイドで世田谷区、世田谷NPO協議会、玉川まちづくりハウスからのご支援に心から御礼申し上げます。(柳島)

等々力ロングコース(等々力溪谷等)



(建築協定の街並み)



(等々力溪谷)



(日本庭園)

(等々力不動尊)



10時出発。溪谷西側の緑多く落ち着いた心地よい街並みを歩く。ここは住環境を維持する建築協定区域で、土地所有者全員の合意によって建築基準法以上の細かい基準を定め守っている区域である。一巡してゴルフ橋に戻り、区の鎌田係長から溪谷の成り立ちや木々の説明を聞いて溪谷に下りる。斜面にはケヤキ・シラカシなどの木々が枝を伸ばし、都会とは思えない自然を味わいつつ、川のせせらぎの快い音を聞きながら進む。途中耕地整理の時に出来た玉沢橋の下を通り、不動の

滝近くまで下る。この辺りは休日のせいか幾つもの団地で混雑していた。右側の斜面を登り、庭師作庭の日本庭園へ。斜面の園路には竹林・みかん畑などがあり、登りきると芝生広場に出る。広場横の書院には溪谷の資料が展示されている。溪谷に下る道の崖に関東ローム層が見られた。

滝を左に見ながら階段を上がって不動尊のお堂の前へ。ここからは丘陵の起伏に沿って耕地整理された坂の多い住宅地の道を通り尾山台へ。(玉置)

等々力ショートコース(玉川神社等)



(満願寺)



(玉川神社への路)



(耕地整理の石碑)

(等々力4丁目の緑濃い街並み)



等々力ショートコースの参加者15名は、世田谷区みどり政策課の鎌田さんと共に、午前10時半に出発しました。まず、ゴルフ橋を渡り、溪谷西側の建築協定地域の緑と趣のある家並を見てから、玉川総合支所へと歩く。そこには、玉川全円耕地整理をした玉川村豊田村長の石碑がある。碑文を読んだ後、荘厳な満願寺を参拝する。横の坂道を上ると、樹木に囲まれた玉川神社が見えてくる。境内の左側に、大きな石碑の全円耕地整理記念碑がある。右側に百選に選ばれている

根元がこぶのようになった「とっくりグス」と呼ばれている大きなクスノキがある。石段を下りて歩いて行くと森のような緑が見えてくる。のびのびと育っている木に、全員が足を止めて見入った。次に等々力4丁目の緑の濃い街並を通り、午後の会場の尾山台地区会館へと向かいました。

歩いてみると、緑が多い街並の空気は、清々しいのです。緑を大切にしなければという思いが、一層湧いてきました。(遠藤)

秋のつどいレポート

旧玉川村街並みウォッチング（等々力・九品仏）（続き）

九品仏コース



(カヤの木と三仏堂)



(黒松の並木)



(ねこじゃらし公園)

(九品仏池 昭和26年)



徳川四代将軍の頃、可積上人により開山された九品仏浄真寺。天然記念物のイチヨウやカヤの木の立ち並ぶ境内を資料片手に歩きながら、リーダーより九体の仏像と三仏堂・奥沢城なごりの土塁等の説明を受ける。山門を出て堀沿いに歩く道の中央に黒松の並木があり、世田谷区地域風景資産に選定されている。

お寺の裏手一帯はかつて九品仏池があった場所で、次に向かうねこじゃらし公園はその一角にある。この公園を造るに当たって中心となって活動された白勢さ

ん他2名のボランティアの方が花壇の手入れをしながら私達を待っていて下さり、現状や苦労話などをうかがう。毎月、会報ねこじゃらしに掲載された”わたしのはらっぱ”というコラムを一冊に纏め発行した本を皆に頂いた。原っぱで遊ぶ子ども達を想いながら小休止し大平農園へ。

農園には入れなかったが、草いきれや堆肥のにおいが漂う園に沿った小径を歩き、無農薬で野菜を作る大変さと必要性を話し合いながら尾山台へ向った。(杉村)

ビデオ映像鑑賞と懇談会

街並みウォッチングの終了後尾山台地区会館に集合して、堀内代表の司会で旧玉川村の歴史、みどりについてのビデオ映像による説明と街づくりの懇談会を行いました。

始めに旧玉川村の全円耕地整理前後の道路の様子が、「郷土開発」（耕地整理事業完成時に組合がまとめた記録）に記載された新旧の地図を重ね合わせて表示された画像にその違いがくっきりと現れた。今の東玉川から用賀に至る地域が、碁盤目状の道路に切り取られ、1つのブロックが当初は約300坪になっている。これによって現在の玉川地域が、見通しの良い、みどりの多い街並みを形成していることが分かる。

また、玉川神社の宮司さんと九品仏の和尚さんの、インタビュー映像は、守り続けてきた豊かなみどりと歴史を、寺社の建物と古木を紹介しながら淡々と説明さ

れる姿が印象的であった。

等々力渓谷右岸の中町1丁目にある建築協定区域は区内でも数少ない地域で、奥沢2丁目の海軍村に似た、古い建物が未だ残っており、緑の多い行き届いた美しい街並みの映像と建築協定が形成されていった経過のインタビューが映し出された。

映像後の懇談会では、心を砕いて街づくりに努めておられる参加者から、多くの悩みやご意見を頂いた。代替わりする度に、再分化し、時にはマンション開発が行われていく住宅地に対して、建築協定ではなくても住民の街づくり運動等で何らかの方策を見つけ出そうとする姿勢が感じられた。土地や建物は個人の財産であっても、風景はみんなの財産であるというご意見は象徴的であった。(鈴木)



(街並みウォッチング開始 等々力渓谷入口にて)



(ビデオ上映後の懇談会 尾山台地域会館で)

おくさわ今と昔

耕地整理の歴史と奥沢

旧玉川（現在の玉川地区の大部分）の玉川全円耕地整理の歴史に触れる機会があり、街並みウォッチングをこの地域で行いました（1, 3頁参照）。

耕地整理は、鉄道の開発・住宅地の開発と密接な関係があり、公開されている資料からこの3つの年表を、並べてみました。

この地域の開発は渋沢栄一の田園都市会社創立に始まります（現在の田園調布駅西側の住宅地）。この会社は鉄道の敷設戦略から、五島慶太を呼んで目黒蒲田電鉄（現東急電鉄）を設立し、大正12年に目黒蒲田間が開通します。この動きに対応して、同年玉川村村長の豊田正治はかねてから温めていた玉川村全体の構

想を村会に諮り、大正15年に組合設立、昭和3年に工事が始まります。

奥沢二丁目に海軍村があったことは皆様よくご存じのことです。海軍士官と奥沢の地主との土地賃貸契約書には大正13年と記載されており、玉川全円耕地整理組合に先立って、耕地整理が行われたことがうかがわれます。

この表を見ていると住宅地の開発が、鉄道の開通に呼応して行われていることが分かります（新町住宅開発と玉川電気鉄道、田園調布多摩川台開発、奥沢海軍村と目黒蒲田電鉄、諏訪分区（東玉川）耕地整理と新奥沢線）。さらに興味深いのは、田園都市開発、玉川全円耕地整理とも当時の開発が、渋沢、五島、豊田の強力なリーダーシップのもとで民間によって進められたことです。（鈴木）

玉川全円耕地整理と関連開発年表

年	西暦	全円耕地整理	鉄道開通	その他(都市開発等)
明治18	1885		渋谷、新宿開通(山手線)	
明治40	1907		渋谷-二子玉川(玉川電気鉄道)	
大正2	1913			新町住宅開発
大正7	1918			田園都市会社創立総会(渋沢栄一) 都市計画法創設
大正8	1919			
大正9	1920			
大正10	1921			田園都市耕地整理組合設立
大正11	1922			
大正12	1923	玉川村村会で議決(豊田正治)	目黒蒲田電鉄設立(五島慶太) 目黒-蒲田 雪谷大塚-蒲田	(田園都市会社から独立) 関東大震災 田園都市会社の「田園都市多摩川台開発」 奥沢海軍村誕生(地主による耕地整理)(*1) 土地区画整理開始
大正13	1924	組合設立認可申請		
大正14	1925	組合設立認可	二子玉川-砧開通(玉川電気鉄道)	
大正15/昭和1	1926	組合創立総会	丸子多摩川-神奈川(東京横浜電鉄)	東京横浜電鉄による「玉川奥沢開発」
昭和2	1927		渋谷-丸子玉川(東京横浜電鉄) 大井町-大岡山(目黒蒲田電鉄)	
昭和3	1928	①諏訪分区着工(31年完工) ②尾山区(31年) ③奥沢西区(32年) ④奥沢東区(36年)	五反田-雪谷大塚 雪谷大塚-新奥沢(池上電気鉄道)	田園都市会社・目黒蒲田電鉄合併
昭和4	1929	⑤下野毛区(37年)	大岡山-二子玉川(自由が丘駅高架化)	
昭和5	1930	⑥上野毛区(37年) ⑦等々力南区(38年)		
昭和6	1931	玉沢橋発注(31年完成) ⑧等々力中区(35年) ⑨等々力北区(35年)		九品仏池誕生
昭和7	1932			
昭和8	1933			
昭和9	1934	⑩用賀西区(36年)		
昭和10	1935		雪谷大塚-新奥沢(池上電気鉄道)廃線	
昭和11	1936	⑪用賀中区(43年)		
昭和12	1937	⑫諏訪河原区(40年) ⑬野良田区(44年)		
昭和13	1938	⑭瀬田下区(42年)		
昭和14	1939	⑮用賀東区(44年)		
昭和15	1940	⑯瀬田中区(42年)		
昭和29	1954	耕地整理事業完了		

出典：・世田谷街並み形成史、東京急行電鉄50年史、郷土開発(玉川全円耕地整理組合)、(*1)賃貸契約書(西野定正氏提供)

グリーンサムのお庭拝見 Vol 32

静かな街並みを自由が丘へと歩く。左に緑の中に展示しているようなオートバイが目に入ってくる。この風景の、2丁目16番地の勝賀瀬家を、今回は訪問しました。

勝賀瀬さんが生後6カ月の時に家が建てられた。そのお庭にお母様は花を植え、花壇を作った。お父様がゴルフに凝った時には、芝生へと変わった。アプローチに、バナナ・栗・イチジクとスズラン。北側にシダレモモがあったとのことである。

2年前に建て替えたが、「庭の木はそのままに。庭には建材を置かないように」と注文した。現在のお庭には、グミと今年は梅干しを作ったという梅。鳥に食べられないように実に袋を被せてある柿。西側には、お正月の寄せ植えの10センチぐらいの小さかった松と日除けのために植えられたサルスベリが、立派な大木となっている。お子様のために作った畑に、トマト・

ピーマン・ナス・オクラ・シソ・ミカンとコリアンダーなどが育っている。毎年、周りの人達が咲くのを楽しみにしているピンクの花の芙蓉。北側にお母様の好きだった桔梗。奥様が大事に育てたので、今年は白と紫の花が咲き誇った。玄関前のスクリーンに絡みついているツルバラは、庭から移植した。横には黄色の秋明菊。その前にオーストラリアの枕木が並べてある。花が咲いていない時に、歩き疲れた人が枕木に座って休んでいたとか。

勝賀瀬さんは「お庭は自然に変わっていく。弱ってきた梅と北側にあったサツキは、挿し木で増やしていく。駐車するために切ったイチジクに実が出来たら、仏壇に供えたい」。とのこと。

ふと、ほほ笑みながらお庭を眺めている勝賀瀬さんのお母様の姿が、目に浮かびました。(遠藤)

活動報告

●チェリーセージポットのメンテナンス：9月21日と10月12日に、チェリーセージポットの、剪定、土換え、施肥を行いました。今回は初めての方にもお手伝い頂きました、次回は予め予定を会の掲示版でお知らせすることも考えます。

●今回のNPO提案型協働事業では、「住宅地のみどりを守り育てるための啓発事業」というテーマで、NPO法人玉川まちづくりハウスと協働で活動しており、お互いに助け合っています。10月15日に玉川まちづくりハウスの、八幡小学校デジタルカメラ講座「まちあるき」に引率ボランティアとしてお手伝いしました。

●奥沢3丁目にある有料老人ホームの担当の方から、施設建物入口の植栽改良について当会に相談を受けていましたが、この度お話がまとまり会としてお受けすることになりました。仕事は、植栽改良のデザイン、土換え植え付け作業及びフォローアップ（相談やアドバイスを一定期間）することになります。業者とは一味違ったみどりの貢献が期待されます。

会からのお知らせ

●11月29日午後1時30分から奥沢地区会館で晩秋のつどいを開きます。第1部は東京農業大学成人大学の伊東副学長による、花・野菜・果樹・農業のお話と、第2部は前回の好評に応じて再登場の”漫謡懐かしのメロディー”です。岩田百郎さんのアコーディオンに合わせて一緒に歌ってお楽しみ下さい。

●壁新聞は2丁目の3か所に設置されています。立ち止まって見て下さる方を度々お見かけし反響もあって、やり甲斐を感じています。貼ってある地図や資料など、ご希望があれば差し上げます。ご連絡下さい。

●土とみどりを守る会は、いつでも会員を募集しています。連絡先にお電話又はホームページへ。

編集後記

今年のまちめぐりは大きな呼びかけになったために、奥沢の方々には例年の気安い雰囲気から遠去かったような感じだったのでは—と思います。参加者は「又このような催しを企画してほしい」「自分の住む近くにこんな緑の多い街並みがあるとは気が付かなかった」などの感想を頂きました。また来年は原点に戻ります。日増しに日暮れが早くなり何か忙しく淋しくなるのは私だけでしょうか。木々の緑の色も変化して、来る冬をを想わせるたたずまいになって来ました。インフルエンザにご注意！元気に冬をお過ごしください。(Y)

土とみどりを守る会 連絡先

世田谷区奥沢 2-19-9 長瀬雅義 5729-0126

世田谷区奥沢 2-41-2 柳島尚子 3718-8558